

設立趣意書

1.趣旨

1990年代後半、地元出身ではなく、知り合いのいない町での孤独な子育て中に知り合ったメンバーで立ち上げたサークルを原点として、自分たちに必要な子育て支援を当事者として相互に行ってきました。2009年7月に「子育て支援はまちづくり」をキーワードに一步進んで人がゆるやかに集える拠点を持つために「みんなのお茶の間 ゆりり家」を発足し、下記の事業を行ってきました。

- ・多様な人とのゆるやかな交流ができる子育てひろば
- ・子どもたちが自分の意志で来ることができるサードプレイス
- ・子育て中の親同士が情報交換するおしゃべり会
- ・大人も子どもたちも多様な体験ができるような各種イベント
- ・トライやるウィークの受け入れ
- ・他団体との協働
- ・中高生たちの居場所づくり・学習支援
- ・子育てにまつわる情報の発信

活動年数が十年を超えるころ、次世代の人たちとつながりができてきましたが、自分たちの子育て中と何も状況が変わっていないことに気がつき、子育ては自分の子どもが育って終わりではないことを強く感じました。

新しくつながり始めた次世代の人たちの意見も聞いて、新たに決めたビジョンは「いろんな『コドモ』を見守る、気のいい『オトナ』であふれる町をめざす」ということ。多様な特性をもった子ども達も含めた「いろんなコドモ」の育ちを、おおらかな気持ちで見守る「気のいいオトナ」をふやすことが、子どもだけでなく大人も生きやすい地域社会につながると考えています。

今回、法人として申請するに至ったのは、今後の稲美町を中心とした子育て支援を考えたとき、活動の担い手として「当事者、経験者」が行政、専門家、地域の様々な団体と「協働」するためには、運営基盤が必要だと強く感じたからです。また、当団体の活動が営利目的ではなく、多くの市民の方々に参画していただくことが不可欠であるという点から、特定非営利活動法人格を取得し、事業を継続、発展させていくことを決意しました。

2申請に至るまでの経緯

- 2009年7月 みんなのお茶の間 ゆりり家 設立
子育てひろば「よっといday」、長期休暇中の小学生対象教室「なつのでらこや」
児童館「おきらくだがしかし...」、大人のまなびば「おとなのでらこや」開催
- 2010年1月 小学生たちによる「こどもおはなし会」を稲美町立図書館で開催
2月 小学校へへの出張講座「いのちの教室～赤ちゃんとの交流授業」開催
6月 トライやるウィークの受け入れ(現在まで継続)
- 2011年11月 てらこやまつり
- 2013年2月 ちょこちょこおみせ
- 2016年3月 くるくるリサイクル開始
- 2018年8月 不登校を肯定する全国ムーブメント「不登校は不幸じゃない」開催
- 2019年12月 第1回こどものまち稲美 開催
- 2021年5月 放課後自習室「まなぼうや」始める
- 2021年6月 しゃべろ～や開催
8月 「ワカモノ哲学」始める
- 2021年9月 ドイツゲームであそぼうや 始める
9月 「ママをやめてもいいですか?!」上映会開催
- 2022年3月 コープこうべ虹の賞受賞
8月 「みんなの学校」上映会・マイクロキャンパス展 同時開催
- 2022年8月 公会堂によっといday開始
- 2023年6月 放課後自習室まなぼうやを放課後居場所カフェまなぼうやに変更
7月 フードパントリー開始
- 2023年5月 会員間で法人化の意思確認
11月 設立総会開催

2023年11月16日

特定非営利活動法人ゆるり家
設立代表者 濱田 理恵